



やまなし サイエンスラボ

山梨の産業の活性化や県民生活の
向上を目指す試験研究機関の紹介

vol. 4 畜産酪農技術センター



LEDライトを利用した技術開発で

養鶏産業の発展を担う

畜産酪農技術センターでは、山梨の養鶏産業のさらなる発展を目指しLED単波長を利用した、肉用鶏の生産性向上技術の開発に取り組んでいます。

地域に根差した試験研究と ブランド食肉の開発

当センターは、昭和11年に山梨県立種畜場として開設、その後、分場などの組織再編を経て、昭和37年に山梨県畜産試験場、山梨県酪農試験場となりました。平成29年4月からは、二つの試験場を統合し、名称も山梨県畜産酪農技術センターと改め、県内の畜産業・酪農業の振興に向けた試験研究に取り組んでいます。

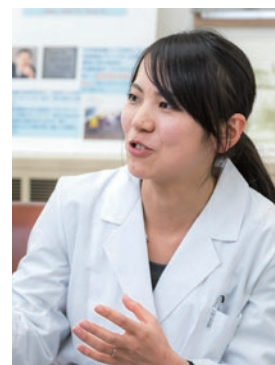
センターには、養豚科と養鶏科のほか、長坂支所に乳肉用牛科と草地環境科があり、家畜の高品質・低コスト化を図るための試験研究などを行っています。また、甲州富士桜ポーク、甲州地どり、甲州類落鶏、甲州牛などのブランド

食肉の研究開発にも携わっています。

LED単波長の研究で 広がる養鶏産業の可能性

私が所属する養鶏科では、近年、肉用鶏に青色や緑色のLED単波長を照射することで、発育や肉質などにどのような影響を及ぼすかを調査し、出荷までの日数の短縮化など、生産効率の向上を図る研究に取り組んでいます。

鶏は光に対する感受性が高いため、かねてから光の活用は着目されてきました。以前は、白熱電球を用いて点灯時間や明るさの調整に関する研究を行っていましたが、さまざまな波長が含まれているため、光の効果がはっきり解明できませんでした。しかし近年LEDライトが開発されたことで、単一波長の



畜産酪農技術センター
養鶏科
小林 那美香 技師



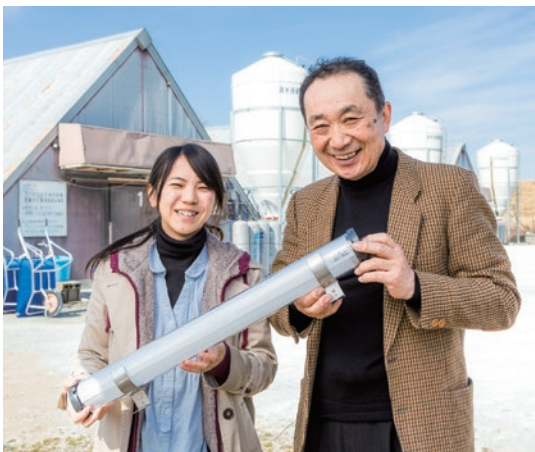
健康でおいしい
鶏を育てるため
LEDの技術に
期待しています



アートファーマー
三尾 馨さん

養鶏業を始めて12年になりますが、センターにはいつも貴重なアドバイスをいただいています。今回のLEDを利用した技術も目からうろこが落ちる思いで、実証試験に協力させてもらっています。現在、1回目の実証試験の最中ですが、この技術が生産効率の向上につながっていくことを大いに期待しています。

山梨は、畜産業が盛んなスイスに似たところがあり、畜産に適していると感じています。今後も、センターと協力して、ここ山梨で健康でおいしい鶏を育てていきたいと思っています。



センター職員は、現場の声を研究に生かすため、定期的に生産農家を訪問。日頃から率直な意見交換を行うことで、協力関係を深めている。手に持っているのは、実証試験に使用しているLEDライト

畜産酪農技術センター



【問い合わせ先】

TEL 055-273-6441 FAX 055-273-9423

山梨 畜産酪農技術センター

検索



鶏舎の中でLEDの照射を行い、発育や肉質などへの影響を調査。現在45日～50日を要している出荷までの日数が短縮化され、鶏舎回転率の向上や生産コストの削減が期待できる

通常の白熱電球(上) 緑色LED(中) 青色LED(下)



健康な鶏を育て おいしい鶏肉を消費者へ

照射が可能になり、鶏への影響を細かく調査できるようになりました。現在は、研究で得られた成果を検証するため、生産農家で実証試験を行っています。今後は、複数の色の光の混合やLED照射と効率的な飼料のマッチングについても研究を進め、さらなる生産性の向上を目指していきます。

LED単波長を利用する研究は、全国的にも先進的な取り組みで、本県と「包括的研究教育協力に関する覚書」を締結している日本獣医生命科学大学と連携して進めています。大学には単波長効果のメカニズムや細かいデー

タ分析などについて協力してもらい、センターでは科学的根拠に基づいた研究を深めています。

私たちは、生産現場の声を取り入れて研究を行い、生産者につないでいくことを目指しています。今後も、本県の養鶏産業の発展に貢献し、県民や観光客に安全でおいしい鶏肉を食べていただけるよう、研究を行っていきます。



鶏舎内の鶏の健康状態を観察